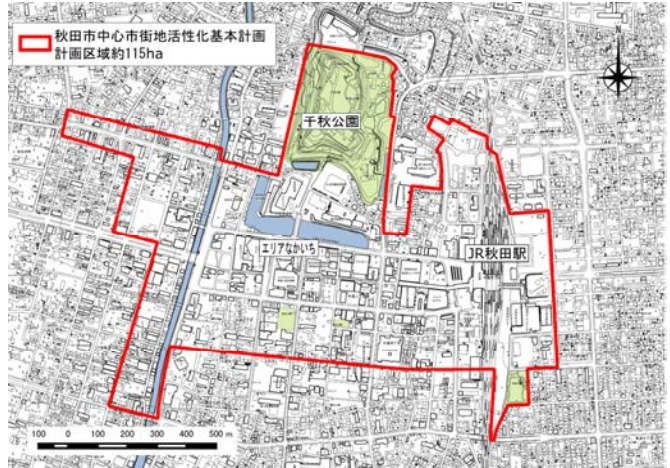


## 第648回建設技術講習会 現場研修事業の概要

### 1. 秋田市中心市街地活性化基本計画（秋田版CCRC事業等） ..... 秋田市

秋田市では、平成20年7月に第1期目、平成29年4月に第2期目の中心市街地活性化基本計画を策定し、内閣総理大臣の認定を受けて中心市街地の活性化に取り組んでいるところです。

秋田版CCRC事業は基本計画の中で、活性化に向けた事業に位置づけられており、首都圏等からの移住による居住人口の増加を図るだけでなく、子育て支援施設やスポーツ施設等との連携により、多様な世代による新たな地域コミュニティの構築と居住者が街なかで活動することで、中心市街地のにぎわい創出と、健康・長寿の実現を図ることとしています。



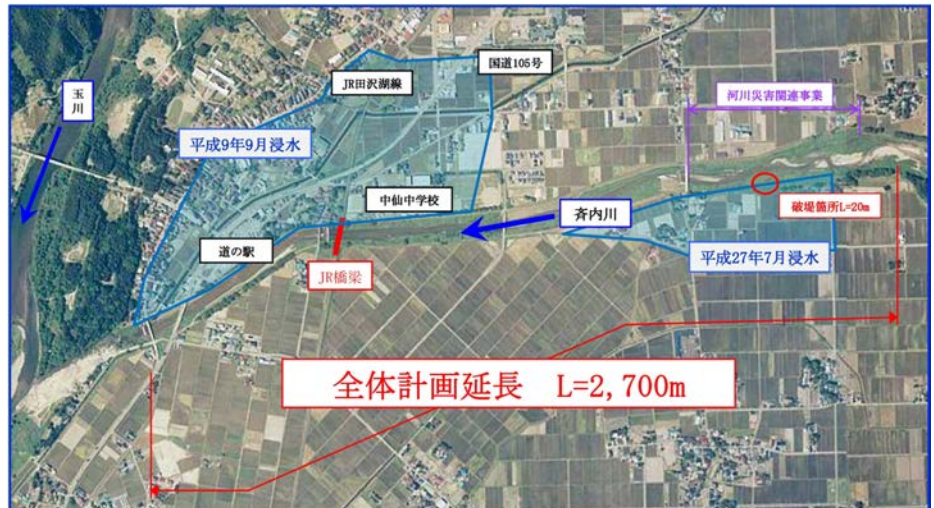
秋田版CCRC事業は、本年3月に策定した「秋田市立地適正化計画」においても、誘導施策として位置づけられており、人口減少が進む中でのコンパクトシティ形成に向けた取組として、事業が進められているところです。

また、JR東日本秋田支社と秋田県、秋田市の三者により、地方創生に向けたコンパクトなまちづくりに関する連携協定が締結されており、「ノーザンステーションゲート秋田プロジェクト」として、秋田駅周辺の活性化に向けた官民連携の取組みも進められています。

### 2. 齊内川 流域治水対策河川事業 ..... 大仙市長野

齊内川は、秋田県と岩手県の県境に連なる奥羽山脈を水源とし、ほぼ東から西に向かって流下した後、大仙市長野地内で玉川に合流する一級河川です。

下流域には、小中学校等の公共施設、国道105号と道の駅「なかせん」、さらにはJR線等の重要施設が集積し、中仙地域の中心部となっています。



齊内川では、平成9年9月の豪雨により208戸（床上22戸、床下186戸）の家屋浸水被害が発生し、平成21年度から流域治水対策河川事業を進めています。

このような中、平成27年7月の豪雨により、JR橋梁上流部において既設堤防が破堤し、床上1戸、床下6戸の家屋浸水被害が発生しました。これを契機として、事業を推進すべく、ネックとなっていたJR橋梁の架け替え工事を平成29年度から着手しています。

なお、平成27年災害で破堤した箇所等については、河川災害関連事業により、平成29年度までに復旧を終えています。

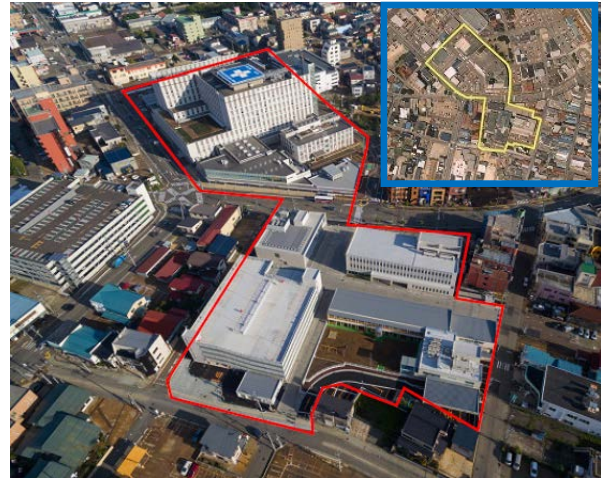


### 3. 大曲通町地区第一種市街地再開発事業

..... 大仙市大曲通町

大曲通町地区は、大仙市の中心市街地にあり、そのなかでも公共公益施設が集積され、商店街など既成市街地が形成されているJR大曲駅西口側に位置しています。

事業区域は、デパートや複数の商業施設、公設ビルから成る北街区と、市道を挟み、総合病院がある南街区の2街区で構成され、JR大曲駅と連絡するバスターミナルが整備されており、主要な交通結節点となっていました。圏域の中核医療を担う総合病院の老朽化・狭隘化が顕著になっており、圏域住民が安心できる医療環境を整備するためには、移転改築が喫緊の課題となっていました。また、車社会の進展や消費者ニーズの多様化から郊外への市街地拡大が進行し、平成20年10月にはデパートが閉店するなど、中心市街地の衰退・空洞化が問題となっていました。

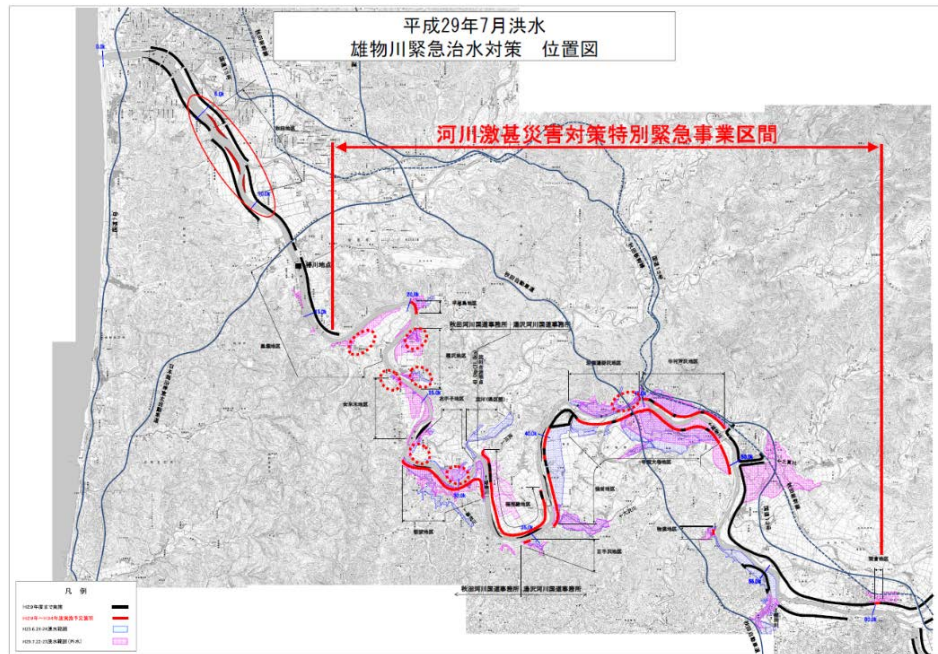


そこで、総合病院の移転先を空き大型小売店舗撤去後の敷地とすることにより、病院移転後の跡地問題の解消や空き大型小売店舗の利活用、インフラ整備済みの都市機能の活用などを総合的に解決できる手法として市街地再開発事業を選択し、まちなかにおける病院の建て替えを核とした「医療・福祉・健康・交通等」をキーワードとした持続可能なまちづくりを進めてきました。

### 4. 雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業

..... 大仙市寺館～協和峰吉川

雄物川中流部においては、これまでも築堤を中心とした河川整備を順次進めていたが、平成29年7月洪水規模に対して氾濫による家屋浸水被害を早期に解消するため、平成29年9月に雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業が採択され、平成34年度（2022年度）までのおおむね5カ年で堤防整備、輪中堤整備等を行っていき、秋田県による主要支川の緊急治水対策とあわせ、雄物川流域の治水安全度向上を目指している。



また、今回の洪水発生時には、ホットラインや緊急速報メールなど住民の避難行動につながる取組み、さらには緊急的な応急対策工事や被害状況調査など地域の建設業関係者との連携による対応も行っており、激特事業を中心としたハード整備とともに、住民避難を促すソフト対策の充実や地域の建設業関係者との連携による災害対応も不可欠と考えている。